



平成19年度(平成20年3月期)
中間決算説明会

平成19年11月6日
塩野義製薬株式会社
代表取締役社長 塩野 元三



 塩野義製薬株式会社

Agenda



◆ 平成19年度 中間決算の概要	ページ
◆ 経営成績	3
◆ 財政状態及びキャッシュ・フローの状況	4
◆ セグメント別売上高	5
◆ 営業利益	6
◆ 平成19年度業績予測	
◆ 業績予測	8
◆ セグメント別売上高予測	9
◆ 営業利益予測	10
◆ 株主還元について	11
◆ パイプラインの進展状況	
◆ 開発ステージの進展	13
◆ 新規開発品	14
◆ 主要な開発品の状況(S-2367, S-777469, S-021812)	15
◆ 新薬開発状況・上市計画	18



平成19年度 中間決算の概要



平成19年度 中間決算:経営成績(連結・単体)



(単位:億円)

	19年上期 実績	18年上期 実績	対前年 UP率%	増減
<連結>				
売上高	1,041	921	13.0	120
営業利益	171	109	56.1	62
経常利益	171	109	56.2	62
当期純利益	107	63	68.7	44
<単体>				
売上高	962	880	9.4	82
営業利益	151	90	66.9	61
経常利益	159	100	58.0	59
当期純利益	90	56	60.4	34

平成19年度 中間決算: 財政状態およびキャッシュフローの状況(連結)



(単位: 億円)

<財政状態>	19年9月期 実績	19年3月期 実績	増減
総資産	4,203	4,295	△ 92
純資産	3,464	3,457	7
自己資本比率	82.4%	80.4%	2.0%
1株当たり純資産	1,018円49銭	1,014円73銭	3円76銭
<キャッシュ・フローの状況>	19年上期 実績	18年上期 実績	
営業活動によるC/F	91	21	70
投資活動によるC/F	△ 85	△ 209	124
財務活動によるC/F	△ 40	△ 39	△ 1
計	△ 34	△ 227	193
現金等期末残高	711	533	

平成19年度 中間決算:セグメント別売上高(連結)



(単位:億円)

	19年上期 実績	18年上期 実績	対前年 UP率%	増 減
医療用医薬品	742	734	1.1	8
フロモックス	124	136	△ 8.8	△ 12
イムネース	64	57	13.3	7
フルマリン	63	70	△ 9.7	△ 7
塩酸バンコマイシン	55	72	△ 22.9	△ 17
リンデロン等外用	53	53	△ 0.2	0
クレストール	44	11	299.8	33
オキシコンチン	32	25	27.6	7
クラリチン	29	25	15.2	4
フィニバックス	12	9	32.2	3
アベロックス	8	11	△ 32.0	△ 3
輸出・海外事業	29	27	7.8	2
製造受託	26	17	57.9	9
一般用医薬品	29	31	△ 6.2	△ 2
診断薬	17	17	1.2	0
工業所有権等使用料収入	154	83	86.1	71
クレストール	144	74	96.0	70
不動産賃貸・その他	42	13	234.2	29
合計	1,041	921	13.0	120

* 医療用医薬品の製品別売上高は単体売上高

平成19年度 中間決算:営業利益(連結)



(単位:億円)

	19年上期 実績	18年上期 実績	対前年 UP率%	増 減
売上高	1,041	921	13.0	120
(ロイヤルティ)	(154)	(83)	(86.1)	(71)
	33.3 (39.1)	33.2 (36.5)		
売上原価	346	306	13.3	40
売上総利益	694	615	12.9	79
	50.2	54.9		
販売費・一般管理費	523	506	3.5	17
販売・管理費	327	327	0.2	0
研究開発費	195	179	9.6	16
	16.5	11.9		
営業利益	171	109	56.1	62



平成19年度 業績予測



平成19年度 業績予測(連結・単体)



(単位:億円)

	19年度 予 測	18年度 実 績	対前年 UP率%	増 減
<連結>				
売 上 高	2,150	1,997	7.6	153
営 業 利 益	400	288	38.6	112
経 常 利 益	400	281	42.3	119
当 期 純 利 益	240	185	29.1	55
<単体>				
売 上 高	2,020	1,856	8.8	164
営 業 利 益	370	248	48.6	122
経 常 利 益	385	259	48.2	126
当 期 純 利 益	225	173	29.9	52

平成19年度 業績予測:セグメント別売上高(連結)



(単位:億円)

	19年度 予測	18年度 実績	対前年 UP率%	増 減
医療用医薬品	1,573	1,519	3.5	54
フロモックス	294	306	△ 4.0	△ 12
フルマリン	123	133	△ 7.7	△ 10
イムネース	116	117	△ 1.1	△ 1
クレストール	108	25	326.7	83
塩酸バンコマイシン	102	129	△ 20.7	△ 27
リンデロン等外用	101	101	△ 0.2	0
クラリチン	83	72	15.7	11
オキシコンチン	67	52	30.0	15
フィニバックス	29	20	44.8	9
アベロックス	28	24	16.3	4
輸出・海外事業	63	53	19.3	10
製造受託	53	40	32.4	13
一般用医薬品	61	61	△ 0.5	0
診断薬	36	33	8.7	3
工業所有権等使用料収入	310	213	45.8	97
クレストール	290	194	49.8	96
不動産賃貸・その他	54	78	△ 31.2	△ 24
合計	2,150	1,997	7.6	153

* 医療用医薬品の製品別売上高は単体売上高

平成19年度 業績予測:営業利益(連結)



(単位:億円)

	19年度 予 測	18年度 実 績	対前年 UP率%	増 減
売 上 高 (ロイヤルティ)	2,150 (310)	1,997 (213)	7.6 (45.8)	153 (97)
	31.4 (36.7)	33.8 (37.8)		
売 上 原 価	675	675	△ 0.1	0
売 上 総 利 益	1,475	1,322	11.6	153
	50.0	51.7		
販売費・一般管理費	1,075	1,033	4.0	42
販売・管理費	665	658	0.9	7
研究開発費	410	375	9.5	35
営 業 利 益	400	288	38.6	112
	18.6	14.5		

株主還元について



< 配当予定 >

- ◆ 今期中間配当は、2円増配の10円を実施いたします。
- ◆ 期末の配当予定10円と合わせまして、年間配当として4円増配の20円を予定しております。

< 配当性向 >

2007年度	見通し	28%
2009年度	目標	35%

< 自己株取得 >

- ◆ 自己株取得につきましては、100億円を上限とする取得を実施中です。
- ◆ 株主様への還元については収益基盤の改善とともに積極的に向上を図ってまいります。



パイプラインの進展状況



開発ステージの進展



◆ SCH29851 (クラリチン)

◆ 錠剤の小児への適応拡大, ドライシロップの追加 ⇒ 10月19日承認

◆ S-4661 (ドリペネム)

◆ 海外: J&J社が米国での承認を取得 (腹腔内感染症, 尿路感染症)

◆ 国内: Phase 3 (小児への適応拡大) を開始

◆ LY248686 (デュロキセチン)

◆ Phase 3 (DNP: 糖尿病性神経因性疼痛) を開始

◆ S-777469

◆ 国内でのPhase 1を完了, 2007年11月にPhase 2a開始予定

◆ S-888711

◆ 2007年9月に国内でPhase 1開始

新規開発品



◆ S-349572

- ◆ インテグレース阻害薬, S-364735(開発中止)のFollow up化合物
- ◆ シオノギー-GSK JVの開発品
- ◆ 2007年中に米国にてPhase 1 開始予定

◆ S-555739

- ◆ プロスタグランジンD2拮抗薬, S-5751(開発中止)のFollow up化合物
- ◆ 国内で2007年11月にPhase 1 開始予定

⇒ S-888711を含め, 今年度, 自社創製品3品目のFTIHを
達成予定

主要な開発品の状況：S-2367



◆Phase 2b 試験:

◆2試験（患者数合計：1500）

- 2007年9月に登録完了
- 2007年度内(2008年3月)の中間解析を目指す

◆パートナーリング:

- ◆候補となる複数の製薬企業へ交渉を開始
- ◆Phase 2b完了までに確定させる方向

主要な開発品の状況：S-777469



- ◆ 経口カンナビノイド2 (CB2) アゴニスト
- ◆ CB2受容体に選択的で強いアゴニスト活性を有し、抗そう痒作用と抗炎症作用を併せ持つアトピー性皮膚炎治療薬
⇒ アトピー性皮膚炎治療薬としてはFirst in class
- ◆ 国内でのPhase 1 反復投与試験を完了
2007年度内にPOC試験を日米で開始予定

主要な開発品の状況：S-021812（ペラミビル）



- ◆ 抗インフルエンザウイルス薬（ノイラミニダーゼ阻害剤）
 - ◆ A型・B型インフルエンザウイルスに強い抗ウイルス活性
 - ◆ 高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1）にも強い活性
 - ◆ ノイラミニダーゼへの結合力が強く、解離しにくい
⇒ 1回投与で治療効果が期待できる
 - ◆ 発症後48時間以上経過後においても、治療効果が期待できる（Delay 投与）

- ◆ Phase 1 試験の投薬は完了
⇒ 今年中にPhase 2試験開始予定

新薬開発状況・上市計画 (2007年11月現在)



	DCS	Ph1/Ph2a	Ph2b	Ph3	申請	上市
重点3領域		S-349572 (HIV感染症)	S-013420 (細菌感染症)	フィニバックス (小児感染症)	ドリペネム (J&J, 細菌感染症)	ドリペネム (J&J, 腹腔内 感染症, 尿路感染症)
		S-021812, ペラミビル (インフルエンザ)				フィニバックスキット 2006年度
	★	導入検討最終段階 (非がん性疼痛治療薬)		デュロキセチン (DNP)		オキノーム散 2006年度
疼痛		導入検討最終段階 (インスリン抵抗性改善薬)	S-2367 (肥満)		イルベサルタン (高血圧症)	→(2008年度)
		導入検討最終段階 (LDL-C低下薬)				
MS						
フロンティア領域	★	S-777469 (ADに伴うそう痒)				クラリチン® (新製剤)
		S-555739 (アレルギー疾患)				
アレルギー		S-888711 (血小板減少症)			ピルフェニドン (特発性肺線維症)	→(2008年度)
		S-0139 (脳血管障害)		デュロキセチン (うつ)	アダパレン (にきび)	→(2008年度)
	★	NS75A (子宮筋腫)	NS75B (前立腺肥大症)			→(2009年度)
						セトロタイト® 2006年度
その他						

本資料のお問い合わせ先



本資料の将来の予測等に関する各数値は、発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づくものであり、競合状況等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測数値と大幅に異なる可能性があります。

塩野義製薬株式会社 広報室

本社

TEL: 06-6209-7885

FAX: 06-6229-9596

東京

TEL: 03-3406-8164

FAX: 03-3406-8099